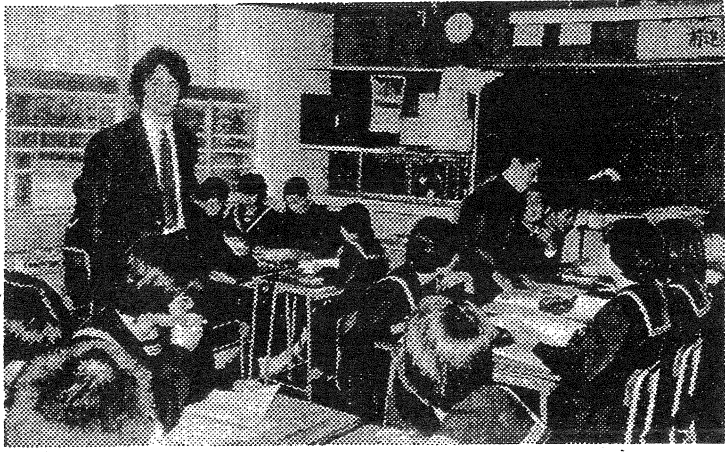


なぜ

英語が話せないの

<11>



「楽しい雰囲気でも生きた英語を学ばせたい」と語る
ロング先生＝立石中

日本に住む外国人（外国人登録）は現在、約百五十万人七十九万五千人。これに旅行者などを加える（法務省調べ）。四十

七都道府県で単純割りすれば、各県平均五万人の外国人が動き回っている計算だが、実際には彼らの多くは首都圏や大都市、

生徒に会話機会を

先生が「やる気」をもって

観光地に偏在。地方都市の生徒たちが外国人と英会話を交わす機会は何もない。少ない外国人に加え、入試英語の弊害、限られた授業時間、英会話に弱い英語教師……と英会話の学習を阻む難問山積の環境のなか「せめて一度は生徒に生きた英語を学ぶチャンスを与えよう」という中学校が増えて

いる。小都市内では最近、宝城、立石、小郡三中学が相次いで文部省派遣の英語指導主事助手スティーブ・ロングさん(30)米国コネチカット州出身を招き「一日英語教師」を務めてもらった。

福岡県教育庁に在籍するロング先生は、県下の英語教師の指導や中、高校での授業担当が主な任務。赴任以来、一年四カ月間に四十三校を回った。

こう話す田中先生は、かつてエジソンバラ大学(英国)に留学したベテラン教師。「若い先生には負けれない」と、現在もテレビ、ラジオの英会話講座で猛勉強中。昨年は中学、高校教師を対象にした英語研修会にも出席した。

ロング先生の授業では、生徒たちが用意した多彩な質問をぶつけた。「日本の印象はどうで

立石中学(高松政道校長、生徒数二百八十人)では、唯一の英語教師である田中玉喜先生が「一日教師」を三カ月前から依頼して、ようやく実現し

だろ。」「中、高校英語教師の八割は厳密に言えば英語が話せない」(福田昇八・熊本大学教授との指摘がある。しかし、県下の

「生徒全員がロング先生と英語で話す。これは貴重な経験です。英会話に興味をもつ生徒も増えるでしょう。わずか一時間の授業とは思えない波及効果

が期待できます」

そう。